

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401657		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム「さくらはうす」		
所在地	長崎県南島原市有家町山川21		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成 27 年 12 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=42
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔返し」を理念に掲げ、スタッフ・入居者様共に笑顔で声を掛け合い、思いやりを持って接しています。スタッフの個性も大事にし、自由な服装で業務を行い、明るく家庭的な雰囲気の中で生活して頂いています。毎年夏休みになると、地域の子供達が駐車場でラジオ体操を行い、入居者の皆様も毎朝、早起きして参加され、元気に過ごされています。スタッフの中には基本資格として看護職がいますので、健康管理も随時行っております。今後も、「さくらはうす」のイメージを崩さず、ひとつひとつの時間を一緒に大切に生活して頂きたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは近隣に大型スーパーやドラッグストア等があり利便性が高く、近年は住宅が増え住宅地化が進んでいる。現在職員教育に力を入れており、今年10月に新たな介護理念を掲げ日々の介護の中で実践できるよう取組んでいる。運営推進会議への参加メンバーを増やすよう努め、情報や意見交換を行いながら今までの地域との関わりを更に深めるよう取組んでいる。入居者と職員が共に食事し会話を楽しんでいる様子から、家庭的な雰囲気が感じられた。日々の支援の中で気付いた事や意見を取り入れ、全職員で話し合いながら見直し・改善に繋げようとする姿勢が窺え、今後も期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホーム さくらはうす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名刺の裏やホーム内のいくつかの場所に理念を掲示し確認出来るようにしている。いつも念頭に置いて共有出来ているが、全員が実践に繋がれているとは言い難い。	今年10月に新たに作成した介護理念は、以前の理念より誰にでも分かりやすく簡潔となっている。毎月の目標を話し合い、日々の介護方法や入居者の状態に応じた目標を掲げる事で理念の実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、近所の店への買い物や夏休みに自治会の子供達に駐車場をラジオ体操の場として提供し、入居者様も早起きして参加している。七夕会にも子供達が来たり敬老会に自治会の方が参加して下さり交流も徐々に増えつつある。	地域やホームの行事にお互い参加し、入居者の楽しみに繋がるよう取組んでいる。現在は自治会へ参加していない為情報交換は運営推進会議で行っている。運営推進会議で自治会長に相談した敬老会では、自治会の方が参加し場を盛り上げて、入居者に喜ばれている。	近年、近隣に住宅が増え住宅地となってきている。ホーム内行事への参加の呼びかけ等今までの付き合いに加え、地域との関係を更に深めるよう積極的に関わり、今後の協力体制を構築する事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験の受け入れや文化祭に入居者の作品を出展している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し行政担当者、入居者様・ご家族代表様・地域の方が参加の上、ホームの状況報告・意見交換を行っているが、ご家族様や地域の方の参加が少ない。議題を決めた時点で関連のある方に声掛けし今後参加者が増える様にしたい。	運営推進会議参加メンバーには都合がつく方が参加する為固定してきているが、前回受審より参加メンバーが少しずつ増え、今後も参加者を増やすよう取組む予定である。会議の中で子ども会の方へ毎年恒例のラジオ体操の時に交流のお願いをしたところ、子どもやその家族から入居者へ話しかけるようになり交流が深まった事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ホームの現状等を伝えている。GH連絡協議会では、市や町に対する意見や要望を取りまとめ提出する等の連携をとっている。	運営推進会議の時に情報交換を行い、行事やセミナーなどの情報をもとに検討し、職員や入居者が参加できるように努めている。現在は『SOSネットワーク』の取り入れを検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し理解を深める様努力している。安全上、せざるを得ない時は所定の手続きの下ご家族様の同意を得て実施する。施錠は、防犯の為に夜間のみ行い日中は自由に入出入り出来るようにしている。	今年は外部研修に参加していないが、言葉による行動抑止とならないよう、職員同士注意し合い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。昨年安全の為に家族と相談・了承のうえ、ベッド柵2本を使用した。経過観察を行い柵を減らすよう取組、改善された事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加、一人ひとりが注意を払い虐待防止に努めている。しかし、何気ない会話の中にも虐待に繋がる言動もある為、意識を高め見過ごしが無い様にしたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方は居るが、その制度を学ぶ機会が無い為、担当職員と連携を深め役立てていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特定の職員により契約書の説明を書面と口頭で行い、ご家族様の理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月さくら通信に手紙を添えて日頃の様子をお知らせしている。 面会時等にご家族様とお話をし意見や要望を尋ねたりするがなかなか本音は出てこない。	事業所から月に1回の通信とお手紙で入居者の状態や、行事参加時の様子を伝えている。面会時や運営推進会議の時に意見・要望を聞くよう努めているが、あまり意見がなくホームとしては意見・要望を上げてもらい、更なるサービスに繋がりたいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の就業時の会話や月1の会議時に情報交換を行い意見や提案を聞いている。法人の経営会議にて意見や提案を反映して頂けるよう努めている。	月1回の職員会議や日々の中で気付いた事や意見について、都度見直しを繰り返しながら改善するように取り組んでいる。職員不足や職員が不得意とする事は、職員同士協力しながら支援に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り希望休が取れるよう配慮しているがスタッフ不足により休日出勤も増え、不満も増えている。なかなかモチベーションが上がらない状況の中でも協力を得ながら維持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修参加の機会は多く設けてあるので、出来る限り参加し業務に活かしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などへ参加し、交流する機会はあるがなかなか意見交換が出来ない。法人の中にも同施設があるので意見交換出来る場を設け、サービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が築けるように傾聴、観察を行い安心して生活が出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時にホームの雰囲気や生活の様子を見に来て頂き、詳しく説明を行い要望等あれば、耳を傾け信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態や経歴を把握しスタッフ同士で情報を共有して、必要な支援を適切に受けて頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ出来るお手伝いをお願いし、雑談を交えながら家庭的な雰囲気の中で生活を共にされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月事報告として毎月担当者から入居者様の暮らしの様子を報告している。面会や行事に来られないご家族様も多いが、出来る限り共有するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限は無く、いつでも訪問できるように努めている。家族以外の知人の面会もそれぞれあっている。	花見やドライブに出かけたり、希望に応じ馴染みの場所へ出かけられるよう努めている。外出の要望は少なくなっているが、家族や知人・近隣住民がいつでも来訪できるよう取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、リビング・居間で過ごされる方が多く、一人ひとり座る場所が自然と決まっている。スタッフを交えて対話を行ったり、テーブルを囲む配置で対話を楽しんで頂けるよう関わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、必要に応じて基本情報やアセスメントの提示を行う等、情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で入居者様の希望や思っていることを聞き出すようにしている。難しい方は表情や口調等で観察を行い把握に努めている。生活歴やご家族様の意見を取り入れた支援をしている。	生活歴や日々の観察から意向を汲み取るように取組んでいる。意思表示が困難な方は表情や声掛けした時の仕草等で状態や意向を把握し、気付いた事は記録し共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや日常会話の中で情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を個人記録に記入し送りや会議時にスタッフ間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様それぞれに担当スタッフを決め、ケアマネ・ご家族様・看護師・主治医等の意見交換を行いながら計画を作成しモニタリングを行っている。	法人内のケアマネージャーが作成し、担当職員を中心に全職員がモニタリングを行っている。計画書は日々の記録を基に、担当職員・入居者・家族の意見を反映し個々の状態に応じた計画で日々の支援に繋げやすく、職員は計画書に沿って支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過を個人記録に記入し要点は送りノートに記入。病院受診や身体状況の変化等はマーカーで色分けし伝わり易くし出勤時には目を通しサインをするようにし、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の希望・状態の変化などに応じ適切なサービスを受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化祭への出展や催し物の参加。近隣の方への協力などを受けて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望があればかかりつけ医を受診。又、嘱託医の往診を月2回行い、適切な医療を受けて頂くよう支援している。	基本的に入居者・家族の希望するかかりつけ医を、職員対応で受診している。症状によっては家族に同行してもらう事もある。週1回訪問看護師と月2回医師の往診があり、入居者の訴えや気になる事を随時相談しながら適切な医療を受けられるよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師に来て頂き、日々の気づきなどを相談し助言を頂いている。必要などときには24時間連絡が取れる様体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の基本情報等の提供を行っている。入院中に面会等行い治療状況の確認や今後のサービスについてご家族様や主治医と相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての説明や同意は頂いているが方針を共有しているとは言えない。今後職員間で理解を深めていかなければならない。	看取りは実施していない。入居時に終末期に向けた説明を行い、関連施設や医療と連携し家族の相談に応じるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修に参加しマニュアルを作成しているが、実際事故が起きた場合の対応が適切に行えるか不安はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署立会にて避難訓練を実施しているが、適切な避難方法がとれていない事もあり、まだ不十分。今後は地域の消防団や近隣住民にも参加を呼びかけ協力体制の強化に努めたい。	職員・入居者はできるだけ避難訓練に参加し、有事に備えるよう取組んでいる。消防署からの講評を基に避難口について改善できるか検討中である。 消防団や地域住民へ訓練へ参加の呼びかけをしているが参加するまでに至っていない。	消防団や地域住民へ避難訓練に参加してもらえるよう参加方法を工夫し、有事の際の協力体制を構築する事を期待します。 消費期に限を記載した備蓄品一覧表を作成し、備蓄品と保管場所(持ち出しやすい場所)を再検討する事をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力もある為、日々言葉かけには注意し、ゆっくりと分かり易く話すようにしている。時には方言を混じえながらも丁寧な言葉掛けに努めている。時々きつい言い方になっている時もあるので改めたい。	職員同士お互いに注意し、入居者を尊重する言葉遣いをするよう努めている。気になる言葉遣いがあった時は口頭注意及び記録に残し、改善に繋がるよう取り組んでいる。現在職員教育を兼ねて振り返りを行っているので、介護の基本に立ち戻り改善に取り組む事をお願いします。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまずは入居者様への言葉掛けを行い、自己決定を促しているが、決められない時には職員の判断、都合になる場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを優先して出来る限り希望に添える様支援しているが、職員の都合を優先してしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の洗面や身支度も状態に合わせ無理なく出来ている。洋服は入居者様の好みの服と一緒に選び季節に合わせた服装を着て頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の調理の手伝いや片づけをされる事はないが、年に1回一緒に協力して調理を楽しむ支援をしている。誕生日にはその方の好みのメニューを聞いて提供したり、ケーキは入居者様と協力して作っている。毎日の食事と一緒に食べる。	職員は入居者と共に食事をし、積極的に話しかけながらコミュニケーションを取るよう努めている。宅食サービスを利用し、食材の購入・献立の手間を簡素化する事で入居者を見守れるよう取り組んでいる。入居者はもやしの根切りやお盆拭き等、できる範囲で手伝っている様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表があり一人ひとりの食事を毎回チェックし記入している。水分も日に数回お茶を提供し習慣にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを実施。出来ない方には介助にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し言葉掛けや誘導を行う。トイレ誘導も兼ねて立位訓練を実施する。トイレでの排泄が維持できるように努めている。	ラジオ体操や個々に応じた下肢筋力の訓練を行い、排泄パターンに応じた声掛け・誘導をし、トイレでの排泄を維持するよう取り組んでいる。ホーム内及び外出時の排泄でも便座移乗まで介助し戸外で見守り、過介護とならないよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給と牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供している。体調に合わせ適度な運動を取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めており、個々に応じた入浴は出来ていないが、スタッフとの対話や冬場は入浴剤を入れるなど楽しみを持って頂くよう支援している。	浴槽は昇降式ベンチ付きで、移乗困難な方は職員2名で対応している。週3回、午前中に入浴を行い、入浴拒否や受診等都合が悪い時は別の日に振り替え、できる範囲で希望に応じるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ラジオ体操やレクリエーションを取り入れ適度な運動を行い、夜間の安眠に繋げている。昼寝をする時間もあり適度に休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬手帳が入れてあり、いつでも確認が取れるようにしている。薬の変更時は申し送りノートを確認している。用途、用量は理解できているが副作用は全て理解しているとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の力量や生活歴に応じ生活面での役割分担など行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を苦にされる方が増えており日用品の買い物などもスタッフが購入して来ている。外出も受診くらいで、年に数回しか外に出ない方もおられる。今後は外出する喜びを支援していくのが課題。	趣味を把握し、それぞれに応じた言葉かけで外出を促すよう努めている。行く前までは渋っていた入居者も、帰って来てからは「良かった」と感想もある。入居者からの希望も少なくなっているので、外出、もしくは替わりになる工夫をお願いします。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は、お小遣い程度の現金を持たれているが使われる事は殆ど無くホームで管理している。必要に応じ支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、電話を掛けるなどの対応をし相手先が聞き取りにくい場合はスタッフが代行し対応する支援を行っている。毎年、年賀はがきを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、日当たりも良く台所も見える場所に位置している為、料理をしながら風景も見ることが出来る。又、匂いに気づき献立の対話をする等の工夫をしている。季節に応じた花や模様替えをする等努めている。	廊下壁面には入居者が作った作品が展示しており、南側に位置する開放的なリビングは、風通しと日当たりに配慮し居心地よく過ごせるよう努めている。食後や運動後等入居者が、ソファや居室で寛ぎ思い思いに過ごしている様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、椅子やソファ、和室には座椅子を設け居心地の良い空間作りに努めている。入居者様はいつの間にか決まった場所に座られ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具やご家族様の写真や位牌等置いて、お供え物をされたりとお好きなように過ごせる様にしている。	洗面・トイレ・クローゼットが設置された居室には使い慣れた寝具や家具、思い入れがあるものを持ち込み、それぞれ過ごしやすい居室となるよう取組んでいる。各居室にはコールやハンドベルを設置し入居者の呼びかけに対応できるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレを迷われない様に表札や張り紙を掛けている。コールの無い場所には、ハンドベルを置きスタッフに伝わり易いように工夫している。		